



市民病院

ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

はなの木ボランティアをご存知ですか

市民病院の正面玄関を入ると、左側にエプロン姿の女性が立っていることをご存知ですか。彼女たちは病院の開設とともに誕生し、29年間ずっと活動を続けている「はなの木ボランティア」の皆さんです。



はなの木ボランティアでは、付き添いの家族が車を移動するあいだなどに、希望に添ってお手伝いをしています。また、場所の説明など「皆さんのお役に立ちたい」という思いを基本とした活動を行っています。必ず「お手伝いしましょうか」と確認してからお手伝いしています。

お手伝いの希望があれば、はなの木ボランティアへ気軽に声をかけてください。

一緒に活動しませんか

はなの木ボランティアでは一緒に活動するメンバーを募集しています。興味のある人は、はなの木ボランティアまたは市民病院管理課総務係までご連絡ください。

とき 月～金曜日 9時～11時30分

※月に1日程度の活動となります。



△はなの木ボランティアの皆さん

碧南の歴史へのいざない



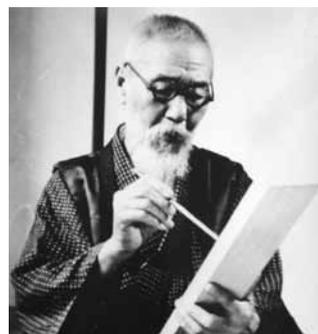
問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.35 人物小伝 藤井達吉

藤井達吉は碧南出身の美術工芸家です。

明治14年(1881年)に棚尾村で生まれ、幼いころから手先が器用な少年でした。棚尾小学校を卒業したあと、木綿問屋をはじめ、いくつかの奉公に出ました。17歳のときに美術学校への進学を希望するも父親の了解が得られず、名古屋の服部七宝店に入社しました。しかし、ここでの経験は達吉の美術に対する考え方の下地となりました。仕事で万国博覧会へ参加するために渡米した達吉は、さまざまな美術作品に接し、日本美術の素晴らしさと西洋美術のデッサンの重要性を知りました。そして、一度は断念した「美術工芸作家」として生きることを決めた達吉は、その後上京し、高村光太郎や岸田劉生など一流の芸術家と親交を深めました。

独学で芸術家となった達吉は自然に学び、自然を手本としました。その作品は、染織・七宝・金工・木工・陶磁といった工芸以外に、絵画・図案・書など、幅広い分野に及びます。



△藤井達吉(市所蔵)

作品づくりだけではなく、先を見抜く目にも優れ、帝国美術学校の教授や百貨店の白木屋顧問、郷土工芸の発展や家庭手芸普及などさまざまな活動をしました。また、瀬戸や小原などで多くの陶芸・工芸作家を指導し、優れた作家を生み出しました。

達吉は昭和39年(1964年)、83歳で亡くなりました。彼の死後、彼の作品や生活空間に美を求めた姿勢は徐々に評価が高まりました。近代工芸史の研究には欠かせない人物の1人です。